はぐくみ

安城中部小学校　学校通信
令和７年９月号　９月１日

今しかできないから

安城中部小学校長　稲留　雄一

長かった夏休みも終わり、２学期の始まりです。夏休み中ご家庭での子どもたちの様子はいかがでしたでしょうか。毎日の昼食の準備も大変だったことでしょう。たくさんの時間を家庭で過ごすため、勉強の様子や生活そのものを目にする時間も多く、小言の一つも言いたくなってしまったのではないでしょうか。約４０日間子どもたちの成長を支えていただきありがとうございました。

夏休み中に孫の顔を見に行きました。まだ１歳半。何を言っているのかわかりませんが、大きな声で一生懸命話をしていました。私はたまに会うだけなので、「かわいらしい」だけで済むのですが、親は毎日のお世話や病気・けがの心配など、苦労は絶えないことでしょう。一日一緒に過ごしている中で、父親（５月号「大切な大人の一言」に登場した茶碗を洗わなくなった長男）が、おむつの取り換えや食事の世話を甲斐甲斐しく実に丁寧に行っているのです。母親がサボっているということではなく、当然自分がやることだという表情で、しかも上手なのです。父親である長男の姿を見ながら、自分のかつての子育てを振り返り、反省するとともに、申し訳なかったと思わざるを得ませんでした。

「毎日大変だよねえ」とねぎらいのつもりで声をかけると「今しかできないから」と一言。こういうお世話は今しかできないことだからと言うのです。こんな言葉を口にする長男ではなかったので、本当に驚きました。奥様の教育の賜物だと思いながら、私自身への反省は、さらに深くなるばかりでした。

次に孫の顔を見に行くのはいつのことになるかわかりませんが、長男の父親としての成長も楽しみになりました。今しかできない子育て。学校と家庭が一緒になって子どもたちの健やかな成長のために、２学期も頑張っていきましょう。

安城市の子どもたちの作文や詩歌を集めた文集「ひろば」第 64 集の原稿を読みました。今後編集を進めていきます。まだ編集中ではありますが、一つ紹介します。

母の日。なかなか感謝の気持ちを伝えられないＡさんと疲れて帰ってきたお母さんのお話です。

【略】

お母さんがねている時、わたしはついに決心した。むがむちゅうでカードを作った。そこで、わたしの気持ちがパーンとはれつした。

「ねえ、お母さん。いつもありがとう。」

とつぶやくと、むくっとお母さんが起き上がった。

「どうしたの。」

「ねえ、お母さん、いつもありがとう。」

ためこんでいた思いがつぎつぎとあふれ出す。わたしはとっさに母の日カードをわたした。カードには、くまのイラストをかき、そのおなかに「いつもありがとう」とメッセージを書いた。

「えっ、どうしたの。」

お母さんはとつぜんのことにおどろきながらも、ふんわりとほほえんだ。わたしはお母さんの手を取った。

「お母さんいつもありがとう。」

と笑いながら言うと、

「何回言うの、それ。」

と、お母さんも笑いながら言った。

「どういたしまして。」

わたしとお母さんの顔が、同時にぱあっと明るくなっていくのを感じた。今までのもやもやがするするとほどけていった。なんと言ったらよいのか分からないこの気持ちは、いったい何なのだろう。お母さんは、ものすごくうれしそうだった。

「えへへ。」

わたしは、ぎゅっとお母さんにだきついた。

「なあに。」

「お母さん、わたしお母さんが大好き。」

「いつもありがとう。」

「…どういたしまして。」

その言葉をくり返した。笑いながらくり返した。そのうちに、お母さんがなみだをぽろぽろと流した。

【略】